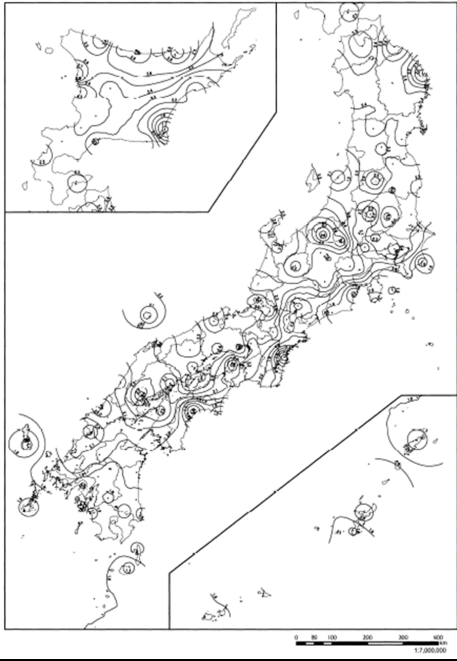
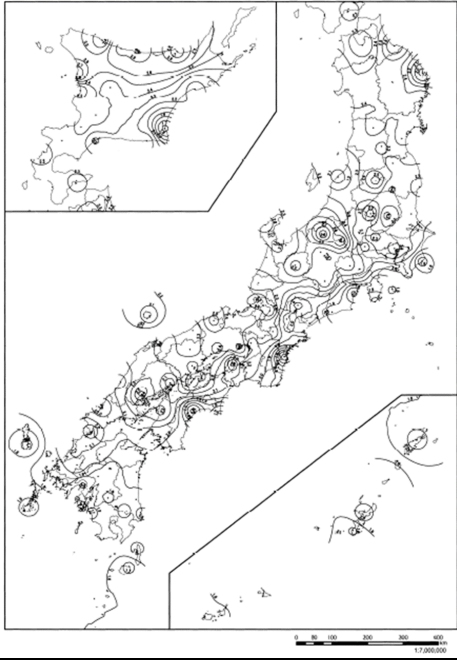


箇所	修正前	修正後
p. 84 下から2行目	(9) 岩及び土砂の分類	(9) (8) 岩及び土砂の分類
p. 89 1) 自然環境に関する調査 9行目	1-4 地盤調査 (8) 現場測定・・・	1-4 地盤調査 (8) (7) 現場測定・・・
p. 244 (1) 舗装本体の貯留・浸透機能を利用する施設 3行目	「4-4 施設の選定」	「4- 4 3 施設の選定」

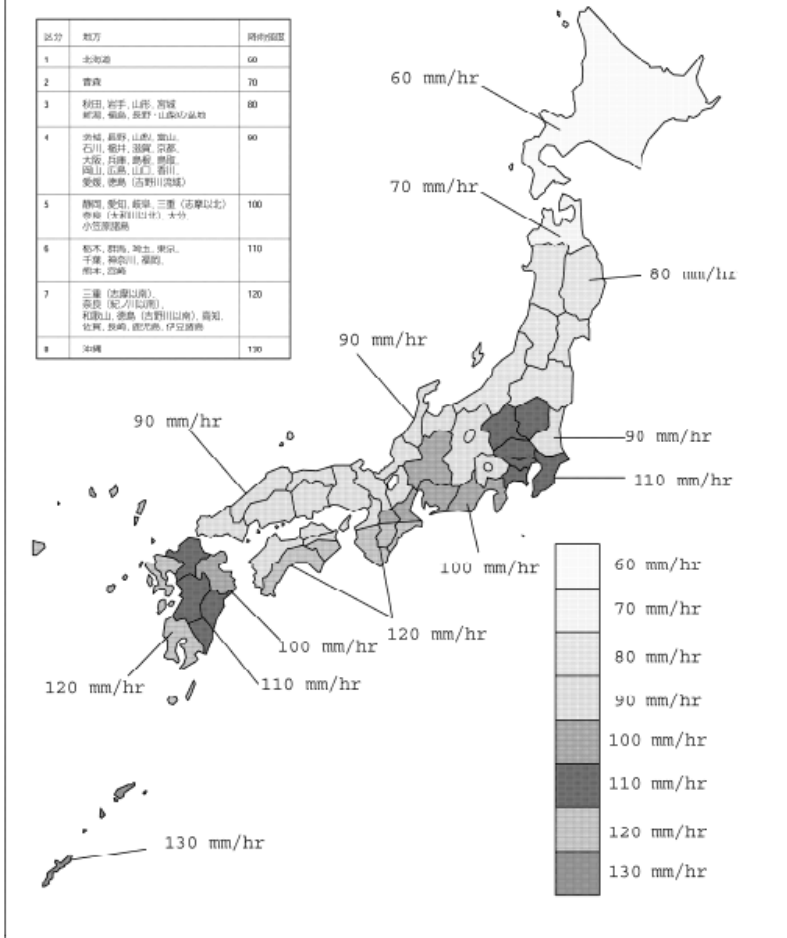
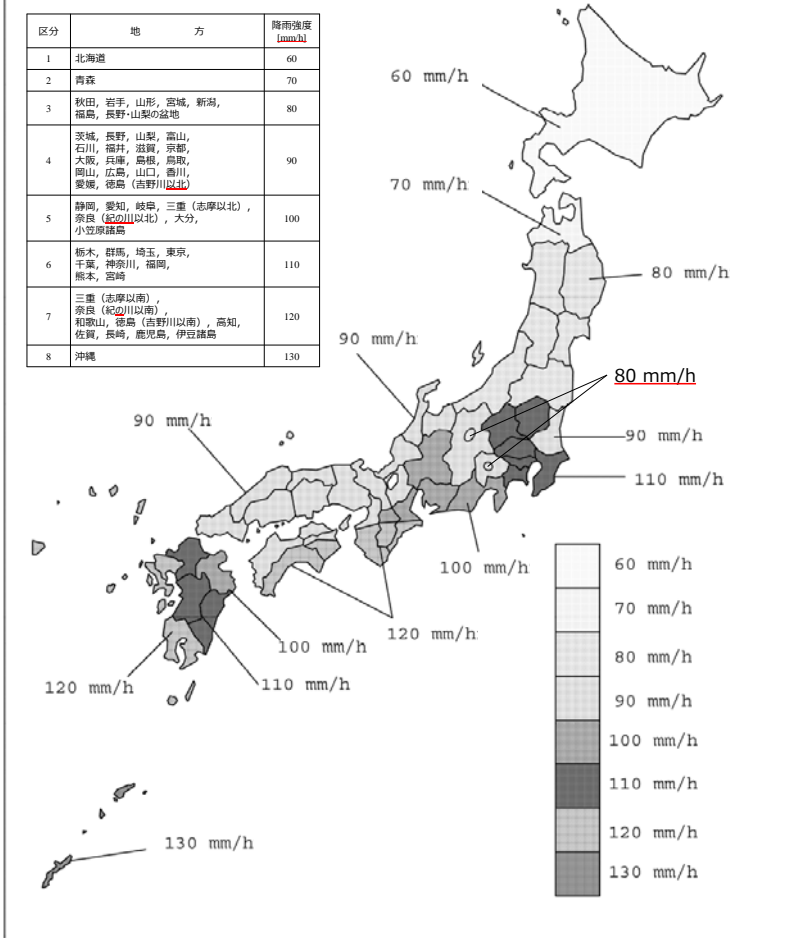
箇所	修正前	修正後
<p>p.129 (ii) 標準降雨強度図の利用 1～10行目</p>	<p>路面排水等の流達時間が極めて短くかつ街きよますのように数多くの設計をしなければならない場合には、解図2-14に示す標準降雨強度を用いることができる(解図2-14の詳細については(社)日本道路協会のホームページを参照されたい)。 これは、3年確率10分間降雨強度全国図として作成したものである。すなわち、全国約150地点における気象官署の1961～2008年の48年間の降雨資料から3年確率10分間雨量強度を求め、また、全国約1,300地点におけるAMeDAS観測所の1976～2008年の降雨資料から、後述の(iii)の方法で求めた3年確率10分降雨強度の分布を参照しつつ、原則として都道府県毎の代表的な降雨強度を設定し、全国マップとしたものである。</p>	<p>路面排水等の流達時間が極めて短くかつ街きよますのように数多くの設計をしなければならない場合には、解図2-14に示す標準降雨強度を用いることができる(解図2-14の詳細については(社)日本道路協会のホームページを参照されたい)。これは、3年確率10分間降雨強度全国図として作成したものである。すなわち、全国約150地点における気象官署の1961～2008年の48年間の降雨資料から3年確率10分間雨量強度を求め、また、全国約1,300地点におけるAMeDAS観測所の1976～2008年の降雨資料から、後述の(iii)の方法で求めた3年確率10分降雨強度の分布を参照しつつ、原則として都道府県毎の代表的な降雨強度を設定し、全国マップとしたものである。<u>解図2-14は(公社)日本道路協会のウェブサイトでも提供されている。また、2008年以降の降雨資料も用いて求めた標準降雨強度図も併せて提供されているので、参照されたい。</u></p>

箇所	修正前	修正後
<p>p.132 (iii) 特性係数法の適用 14～20 行目</p>	<p>ここに、資料－3に示す10分間特性係数β^{10}は、全国150箇所の気象官署における48年間（1961～2008年）の降雨資料から、確率年3，5，7，10，20，30年に対応する10分間降雨強度と60分間降雨強度の比を求め、それらの平均値をとって図示したものである。また、n年確率60分降雨強度R_nは、全国約1,300地点のアメダス観測地点における33年間（1976～2008年）の降雨資料から、確率年3，5，7，10，20，30年に対応する値をそれぞれ求め図示しており、これらについては「資料－4」及び日本道路協会のホームページを参照されたい。</p>	<p>ここに、<u>「資料－3」</u>に示す10分間特性係数β^{10}は、全国150箇所の気象官署における48年間（1961～2008年）の降雨資料から確率年3，5，7，10，20，30年に対応する10分間降雨強度と60分間降雨強度の比を求め、<u>それらの平均値をとって図示したものである。また、n年確率60分降雨強度R_nは、全国約1,300地点のアメダス観測地点における33年間（1976～2008年）の降雨資料から確率年3，5，7，10，20，30年に対応する値をそれぞれ求め図示しており、これらについては「資料－4」及びには3年確率60分間降雨強度の全国図を示している。各確率年のR_nの全国図は（公社）日本道路協会のホームページをウェブサイトで提供されている。また、2008年以降の降雨資料も用いて求めたβ^{10}及びR_nの全国図も併せて提供されているので、参照されたい。</u></p>

箇所	修正前	修正後
<p>p.359 資料－3 降雨の地域特性を示す係数 β^{10} 図</p>	 <p>資図 3-1 降雨の地域特性を示す係数 β^{10} 図</p>	<p><u>降雨の地域特性を示す係数 β^{10} 図は、全国 150 箇所の気象官署における 48 年間（1961～2008 年）の降雨資料から確率年 3, 5, 7, 10, 20, 30 年に対応する 10 分間降雨強度と 60 分間降雨強度の比を求め、それらの平均値をとって図示したものであり、(公社)日本道路協会のウェブサイトでも提供されている。また、2008 年以降の降雨資料も用いて求めた β^{10} の全国図も (公社)日本道路協会のウェブサイトでも提供されているので、参照されたい。</u></p>  <p>資図 3-1 降雨の地域特性を示す係数 β^{10} 図</p>

箇所	修正前	修正後
<p>p.360 資料－4 全国確率 時間降雨強度 (R_n) 図</p>	<p>n 年確率 60 分降雨強度 R_n は、全国約 1,300 地点のアメダス観測地点における 33 年間（1976～2008 年）の降雨資料から、確率年 3, 5, 7, 10, 20, 30 年に対応する値をそれぞれ求め図示したものである。資料として記載するには表示上きびしいため、ここでは代表として 3 年確率 60 分降雨強度図を示すが、各確率年の 60 分間降雨強度図を日本道路協会のホームページに掲載しているので、図の詳細についてはそちらを参照されたい。</p>	<p>n 年確率 60 分間降雨強度 R_n の全国図は、全国約 1,300 地点のアメダス観測地点における 33 年間（1976～2008 年）の降雨資料から確率年 3, 5, 7, 10, 20, 30 年に対応する値をそれぞれ求め図示したものである。資料として記載するには表示上きびしいため、ここでは代表として 3 年確率 60 分間降雨強度図を示すが、各確率年の 60 分間降雨強度図を <u>は(公社)</u> 日本道路協会のホームページに掲載しているので、図の詳細についてはそちらを <u>ウェブサイトで提供されている。また、2008 年以降の降雨資料も用いて求めた R_n の全国図も併せて提供されているので、</u>参照されたい。</p>

箇所	修正前	修正後
p.153 解図 2-26 グラフ横軸のタイトル ※但し、第4刷以前のみ	側溝の横断勾配	側溝の縦断勾配

箇所	修正前	修正後																																																						
<p>p. 130 解図 2-14</p>	<p style="text-align: center;">標準降雨強度図 (1961-2008年気象官署データに基づく3年確率10分間降雨強度)</p> <table border="1" data-bbox="414 414 672 758"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田、岩手、山形、宮城、福島、長野、山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、徳島、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島 (吉野川流域)</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡、愛知、岐阜、三重 (志摩以北)、奈良 (紀の山以北)、大分、小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福崎、熊本、宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重 (志摩以南)、奈良 (紀の山以南)、和歌山、徳島 (吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> 	区分	地方	降雨強度	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田、岩手、山形、宮城、福島、長野、山梨の盆地	80	4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、徳島、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島 (吉野川流域)	90	5	静岡、愛知、岐阜、三重 (志摩以北)、奈良 (紀の山以北)、大分、小笠原諸島	100	6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福崎、熊本、宮崎	110	7	三重 (志摩以南)、奈良 (紀の山以南)、和歌山、徳島 (吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120	8	沖縄	130	<p style="text-align: center;">標準降雨強度図 (1961-2008年気象官署データに基づく3年確率10分間降雨強度)</p> <table border="1" data-bbox="1276 406 1568 766"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度 (mm/h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野、山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、徳島、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島 (吉野川以北)</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡、愛知、岐阜、三重 (志摩以北)、奈良 (紀の山以北)、大分、小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重 (志摩以南)、奈良 (紀の山以南)、和歌山、徳島 (吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center; color: red;">(降雨強度の単位を「mm/hr」から「mm/h」に修正)</p>	区分	地方	降雨強度 (mm/h)	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野、山梨の盆地	80	4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、徳島、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島 (吉野川以北)	90	5	静岡、愛知、岐阜、三重 (志摩以北)、奈良 (紀の山以北)、大分、小笠原諸島	100	6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎	110	7	三重 (志摩以南)、奈良 (紀の山以南)、和歌山、徳島 (吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120	8	沖縄	130
区分	地方	降雨強度																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田、岩手、山形、宮城、福島、長野、山梨の盆地	80																																																						
4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、徳島、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島 (吉野川流域)	90																																																						
5	静岡、愛知、岐阜、三重 (志摩以北)、奈良 (紀の山以北)、大分、小笠原諸島	100																																																						
6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福崎、熊本、宮崎	110																																																						
7	三重 (志摩以南)、奈良 (紀の山以南)、和歌山、徳島 (吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						
区分	地方	降雨強度 (mm/h)																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野、山梨の盆地	80																																																						
4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、徳島、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島 (吉野川以北)	90																																																						
5	静岡、愛知、岐阜、三重 (志摩以北)、奈良 (紀の山以北)、大分、小笠原諸島	100																																																						
6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎	110																																																						
7	三重 (志摩以南)、奈良 (紀の山以南)、和歌山、徳島 (吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						

箇所	修正前			修正後		
p. 130 解図 2-14 内の区 分表	区分	地方	降雨強度	区分	地 方	降雨強度 <u>[mm/h]</u>
	1	北海道	60	1	北海道	60
	2	青森	70	2	青森	70
	3	秋田, 岩手, 山形, 宮城 新潟, 福島, 長野・山梨の盆地	80	3	秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野・山梨の盆地	80
	4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 島根, 鳥取, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川流域)	90	4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 島根, 鳥取, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川以北)	90
	5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北) 奈良 (大和川以北), 大分, 小笠原諸島	100	5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (<u>紀の川</u> 以北), 大分, 小笠原諸島	100
	6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110	6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110
	7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀ノ川以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120	7	三重 (志摩以南), 奈良 (<u>紀の川</u> 以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120
	8	沖縄	130	8	沖縄	130

箇所	修正前	修正後
p.59 解表 1-8 自然含水比 w_n の欄 の下から2つ目	70%~100%	<u>100%</u> ~ <u>200%</u>

箇所	修正前	修正後
p. 352 「資表1-5地域別補 正係数の地域区」の 対象地域（三）の12 行目	鹿児島県	鹿児島県 <u>（名瀬市及び大島郡を除く）</u>

箇所	修正前	修正後
<p>p.109 2) 2行名</p>	<p>(2) , 地盤からの浸透水が凍上することによって . . .</p>	<p>(2) , 地盤からの浸透水の影響により凍上が発生することによって . . .</p>
<p>p.388 Kersten の土質ごとの実測式 砂質土で未凍結時の場合の式</p>	<p>砂質土で未凍結時の場合 $u = \{ (0.7 \log w - 0.4) \times 10^{0.6242 d-3.4628} \} \cdot 418.6$</p>	<p>砂質土で未凍結時の場合 $u = \{ (0.7 \log w + 0.4) \times 10^{0.6242 d-3.4628} \} \cdot 418.6$</p>

道路土工要綱の訂正（平成22年5月（第3刷まで））

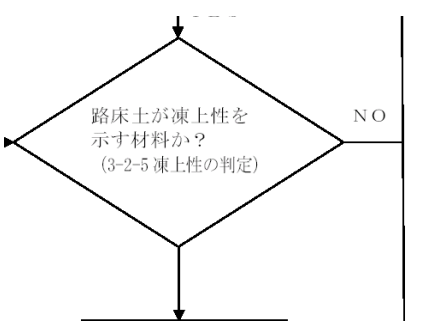
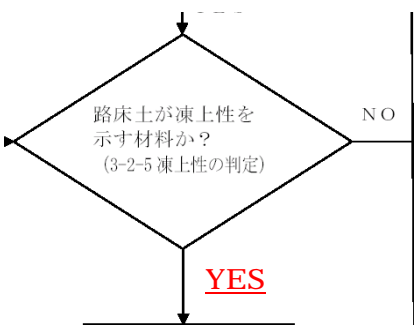
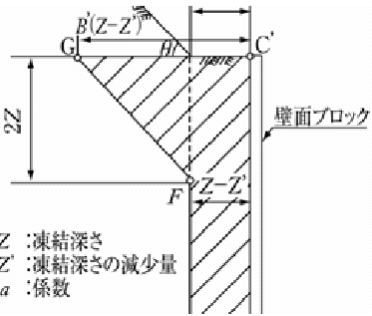
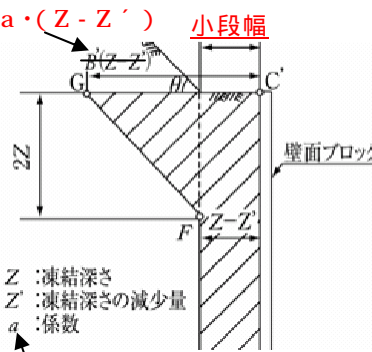
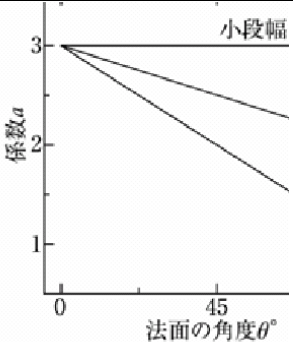
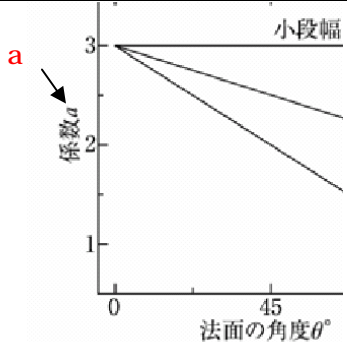
箇所	修正前	修正後
p.132 上から9行目	継続時間 t と地_10 分間特性係数__ によって決まる補正係数で	継続時間 t と 10 分間特性係数 <u>10</u> によって決まる補正係数で・・・
p.272 解表 5 - 1 「礫混じり土」の 「固結した礫質 土」のLの範囲	1.25 ~ <u>1.40</u>	1.25 ~ <u>1.45</u>

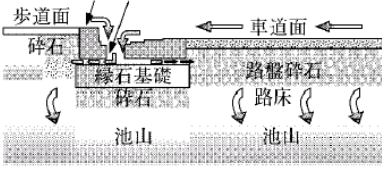
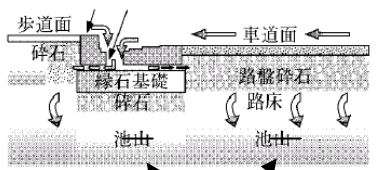
道路土工要綱の訂正（平成21年10月）

箇所	修正前	修正後
p.31 2-4 枠（2）	(2)・・・，これまでの経験・実績から(1)を満足する仕様等，適切な・・・	(2)・・・，これまでの経験・実績から <u>妥当と見なせる手法等</u> ，適切な・・・
p.34 下から7行目	また，これまでの経験・実績から(1)を満足する仕様（材料，施工方法等）については，・・・	また，これまでの経験・実績から <u>妥当と見なせる手法</u> （材料，施工方法等）については，・・・
p.51 解表 1-5 「膨張性の岩石」の「岩石名」の欄	蚊紋岩，泥岩，・・・	<u>蛇</u> 紋岩，泥岩，・・・
p.80 7行目	・・・地盤の深さ方向の <u>物理的</u> ，力学特性を，・・・	・・・地盤の深さ方向の <u>物理的</u> <u>特性</u> ，力学特性を，・・・
p.81 中段 (5) 室内試験 1行目後半	・・・十分に明らかにすることはできない場合は，・・・	・・・十分に明らかにすることは <u>が</u> できない場合は，・・・
p.84 中段 ()のり面，擁壁等・・・ 1行目	構造物の変状 <u>の</u> の主要原因・・・	構造物の変状 <u>の</u> 主要原因・・・
p.85 解表 1-11 「軟岩」の「適用」の欄	弾性波速度 700 ~ <u>2.800</u> m / sec	弾性波速度 700 ~ <u>2,800</u> m / sec
p.96 中段 ()有毒ガスの調査 2行目	ゴミ <u>捨</u> 場等の・・・	ゴミ <u>捨</u> 場等の・・・

p.101 6行目 後半以降	また、解図2-3に示す・・・ 目的も有する。	また、解図2-3に示す・・・ 目的も有する。 <解図2-3ではこの目的も示 しており、 一文は削除。 >																																																						
p.108 最終行	土工構造物の・・・	(一字下げて)土工構造物 の・・・																																																						
p.114 2行 目	・・・事前にそれぞれの道路管 理者と <u>事前</u> によく・・・	・・・事前にそれぞれの道路管 理者と <u>事前</u> によく・・・ <「事前に」が重複しているた め 削除 >																																																						
p.116 解図2-9 「調査項目」 最下段	地下水位・ <u>滞</u> 水層 地層構造 その他	地下水位・ <u>帯</u> 水層 地層構造 その他																																																						
p.125 2-3- 5 枠内2行目	・・・表面水，浸透水を <u>推定</u> し て・・・	・・・表面水，浸透水を <u>推定</u> し て・・・																																																						
p.125 2-3- 5 解説3行目	・・・表面水，浸透水を <u>推定</u> し，・・・	・・・表面水，浸透水を <u>推定</u> し，・・・																																																						
p.130 解図2-14 内の区分表 <HP上の図は 差し替え済み>	<table border="1" data-bbox="507 1294 842 1742"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田、岩手、山形、宮城、 新潟、福島、長野・山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城、長野、山梨、富山、 石川、福井、滋賀、京都、 大坂、兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、香川、 愛媛</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、 奈良(大和川以北)、大分、 小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木、群馬、埼玉、東京、 千葉、神奈川、福岡、 熊本、宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重(志摩以南)、 奈良(紀ノ川以南)、 和歌山、徳島、高知、佐賀、 長崎、鹿児島、伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>	区分	地方	降雨強度	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田、岩手、山形、宮城、 新潟、福島、長野・山梨の盆地	80	4	茨城、長野、山梨、富山、 石川、福井、滋賀、京都、 大坂、兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、香川、 愛媛	90	5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、 奈良(大和川以北)、大分、 小笠原諸島	100	6	栃木、群馬、埼玉、東京、 千葉、神奈川、福岡、 熊本、宮崎	110	7	三重(志摩以南)、 奈良(紀ノ川以南)、 和歌山、徳島、高知、佐賀、 長崎、鹿児島、伊豆諸島	120	8	沖縄	130	<table border="1" data-bbox="949 1294 1284 1742"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田、岩手、山形、宮城、 新潟、福島、長野・山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城、長野、山梨、富山、 石川、福井、滋賀、京都、 大坂、兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、香川、 愛媛、徳島(吉野川流域)</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、 奈良(大和川以北)、大分、 小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木、群馬、埼玉、東京、 千葉、神奈川、福岡、 熊本、宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重(志摩以南)、 奈良(紀ノ川以南)、 和歌山、徳島(吉野川以南)、高知、 佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="941 1769 1372 1982">編み掛けを無くした。また、区 分4に「徳島(吉野川流域)」を 追加。区分7の徳島は「徳島(吉 野川以南)」とする。</p>	区分	地方	降雨強度	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田、岩手、山形、宮城、 新潟、福島、長野・山梨の盆地	80	4	茨城、長野、山梨、富山、 石川、福井、滋賀、京都、 大坂、兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、香川、 愛媛、徳島(吉野川流域)	90	5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、 奈良(大和川以北)、大分、 小笠原諸島	100	6	栃木、群馬、埼玉、東京、 千葉、神奈川、福岡、 熊本、宮崎	110	7	三重(志摩以南)、 奈良(紀ノ川以南)、 和歌山、徳島(吉野川以南)、高知、 佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120	8	沖縄	130
区分	地方	降雨強度																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田、岩手、山形、宮城、 新潟、福島、長野・山梨の盆地	80																																																						
4	茨城、長野、山梨、富山、 石川、福井、滋賀、京都、 大坂、兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、香川、 愛媛	90																																																						
5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、 奈良(大和川以北)、大分、 小笠原諸島	100																																																						
6	栃木、群馬、埼玉、東京、 千葉、神奈川、福岡、 熊本、宮崎	110																																																						
7	三重(志摩以南)、 奈良(紀ノ川以南)、 和歌山、徳島、高知、佐賀、 長崎、鹿児島、伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						
区分	地方	降雨強度																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田、岩手、山形、宮城、 新潟、福島、長野・山梨の盆地	80																																																						
4	茨城、長野、山梨、富山、 石川、福井、滋賀、京都、 大坂、兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、香川、 愛媛、徳島(吉野川流域)	90																																																						
5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、 奈良(大和川以北)、大分、 小笠原諸島	100																																																						
6	栃木、群馬、埼玉、東京、 千葉、神奈川、福岡、 熊本、宮崎	110																																																						
7	三重(志摩以南)、 奈良(紀ノ川以南)、 和歌山、徳島(吉野川以南)、高知、 佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						

p.135 式 (解 2 - 8)	$Q = (1/3.6 \times 10^6) C \cdot I \cdot \underline{A}$ あるいは $Q = (1/3.6) C \cdot I \cdot \underline{a}$	$Q = (1/3.6 \times 10^6) C \cdot I \cdot \underline{a}$ あるいは $Q = (1/3.6) C \cdot I \cdot \underline{A}$
p.137 解表 2-4 「水路の状況」の 欄の 5 行目	" (ペー <u>ピ</u> ングあり)	" (ペー <u>ヒ</u> ングあり)
p.141 中段	・・・設計上は，式 (解 2 - <u>11</u>) の・・・	・・・設計上は，式 (解 2 - <u>12</u>) の・・・
p.143 解図 2-17 中段右側	(2) <u>短</u> 形側溝	(2) <u>矩</u> 形側溝
p.145 解図 2-18 下段	() <u>皿</u> 型側溝の例	() <u>皿</u> 形側溝の例
p.156 下から 10 ~ 11 行目	・・・，横断勾配 S および <u>通水</u> <u>可能幅</u> B ・・・	・・・，横断勾配 S および <u>許容</u> <u>通水幅</u> B ・・・
p.157 解図 2-29 グラフ左側	のみ口の長さ L = 60cm	のみ口の長さ L = 60cm < 下の説明と重複のため削除 >
p.170 14 行目	・・・砂質土で地下水 <u>泣</u> が・・・	・・・砂質土で地下水 <u>位</u> が・・・
p.173 中段 () 2 行目	・・・石積側溝は， <u>間</u> 詰め，ま たは・・・	・・・石積側溝は， <u>間</u> 詰め，ま たは・・・
p.181 下から 6 行目	・・・，盛土内へ浸入する・・・	・・・，盛土内へ <u>水</u> が浸入する・・・
p.184 2 - 8 枠内 2 行目	・・・， <u>常</u> に清掃を行う・・・	・・・，清掃を行う・・・ < 1 行目との重複のため削除 >

<p>p.203 解図 3-2 右下側</p>		
<p>p.217 解表 3-3</p>	<p>1)盛土高さは解図 2-56 による。</p>	<p>1)盛土高さは「<u>道路土工 - 盛土工指針</u>」による。</p>
<p>p.226 解説の 3 行目</p>	<p>・・・側壁に大きな凍上量が・・・</p>	<p>・・・側壁に大きな凍上<u>力</u>が・・・</p>
<p>p.228 解図 3-12 左上図</p>	 <p>Z : 凍結深さ Z' : 凍結深さの減少量 a : 係数</p>	 <p>Z : 凍結深さ Z' : 凍結深さの減少量 a : 係数</p>
<p>p.228 解図 3-12 右上図</p>		

<p>p.245 解図 4-7 (c) 図</p>		 <p style="text-align: center; color: red;">地山</p>
<p>p.246 解図 4-8 (b) 図 説明文</p>	<p>・・・この中に有効管・・・</p>	<p>・・・この中に有孔管・・・</p>
<p>p.284 中段</p>	<p>・・・切土によって発注する・・・</p>	<p>・・・切土によって発生する・・・</p>
<p>p.284 下段</p>	<p>・・・), 切盛土工 (雨期は不適) コンクリート・・・</p>	<p>・・・), 切盛土工 (雨期は不適) <u>レ</u> コンクリート・・・</p>
<p>p.291 中段 () の 3 段落目</p>	<p>・・・, 現在 (平成 19 年) 道路土工・・・</p>	<p>・・・, 現在 (平成 19 年) <u>の</u> 道路土工・・・</p>
<p>p.303 中段 式</p>	$\text{実作業時間率} = \frac{\text{実作時間}}{\text{運転時間}}$	$\text{実作業時間率} = \frac{\text{実作時間}}{\text{運転時間}}$ <p style="text-align: center; color: red;">実作業時間</p>
<p>p.316 下から 2 行目</p>	<p>・・・「労働安全衛生規則」,・・・</p>	<p>・・・「労働安全衛生規則」<u>レ</u>,・・・</p>
<p>p.335 解表 6-4 「地盤改良工」の 「検査対象」</p>	<p>(ただし,・・・)</p>	<p>同上 <元の記述は削除></p>
<p>p.335 解表 6-4 「石・ブロック積 工」の「検査対象」</p>	<p><u>100m</u> につき 1 箇所以上 (ただし,・・・)</p>	<p>同上 <元の記述は削除。上記との整合></p>
<p>p.360 3 行目</p>	<p>・・・それぞれ求め図<u>し</u>し・・・</p>	<p>・・・それぞれ求め図<u>示</u>し・・・</p>